

## 解説(Editorial)

親愛なるギムノカリキウム愛好家 殿  
第9回ギムノの日、 Carmagnola、2015年6月24-26日

Massimo Meregalli



※これは、Mario Wick 博士らが主宰する、Gymnocalycium のインターネットジャーナルに載せられた記事です。  
著者の好意で、翻訳の掲載許可を頂いています。無断転載を禁止します。(翻訳 ; 島田 孝)

Carmagnola(イタリア)で開催された、ギムノの日の間、*G. calochlorum* - *G. parvulum* - *G. leptanthum* 複合体に属する植物の非常に有意義な議論が行われました。

Wolfgang Papsch と Ludwig Bercht は、20世紀の初めに Spegazzini により提案された、特に二つの後者の名前に関する文献の正確な分析を用意しました。彼の研究に基づき、Papsch は、Spegazzini と Stuckert が 1898年と 1899年の旅行中、*Echinocactus platensis* var. "leptantha"として記述した原記載の植物は、1899年1月18日に発見した可能性が高い事を提案しました。この頃、二人の植物学者が Cosquin の南の産地を訪問し、そしてそこが、この分類学種のタイプが来た場所であったようです。Bercht は、*E. platensis* var. "parvula"は『sierra de San Luis の石の多い、乾燥した丘』から記述された分類学種と見なし、その記述を適用することができる植物が、非常に一般的である産地、Tanti からそう遠くない、Pampa de San Luis として良く知られた場所があると述べました。これらの調査は、このように起源の可能性がある場所をこれらの2つの分類学種に対して提供します。これらの名前、または二つのうちの一つは、*G. calochlorum* として知られていた植物に対し使われた、最初の名前です。二つの Spegazzini が命名した、タイプ標本は、Buenos Aires に存在するので、より完全な分析は、これらのタイプ標本の写真を見るまで延期されます。

会議の間に、調査中のグループ植物の既知の分布を考慮すると、それらが、範囲がよく区切られることに気づきました。Massimo Meregalli と Ludwig Bercht は、栽培しているものと同様、生息地の多くの枚数の写真を示しました。一つの個体群のグループは Sierra Grande の東端の Villa Carlos Paz 周辺です。これらは、現在、*G. calochlorum* として知られています、そして気が付くことですが、たとえ学術記載が、その起源の少しの正確な場所も示さないとしても、それらの表皮の素晴らしい緑色から、植物は記述と完全に関係します。Sierra Grande の西端に生えている、明確に区分できる他の分類学種、そしてその名前 Las Palmas からの *G. parvulum* var. *amoenum* は、これらの植物に対して有効です。いずれにしろ、この分類学種が2つの区別された形を示すように見えます。そして、第2のものが Salsacate の南側と Nono の間に分布します。(訳者注;この種は、*G. parvulum*、又は *G. calochlorum* v. *proliferum* 等として報告されている。)三番目の分類学種は、Cordoba 州の北側の Ischilin 周辺から、*G. parvulum* subsp. *agnesiae* と

して記述されました。すべてのこれらの分類学種は、亜属 *Gymnocalycium* の通常の種子に比較して、わずかにより小さな種子を持ちます、そして *Meregalli* により示されたように、いかなる、クチクラ層の痕跡がありません。(訳者注；クチクラは、日本語で角皮ともいい、生物体の表面を保護する堅い非細胞性の構造で、表皮を構成する細胞 から分泌される、丈夫な膜である。) グループの最後の分類学種は、San Pedro Norte 周辺からの *G. parvulum* subsp. *huettneri* です。植物がその地域に生息する、他の種と必ずしも明確に区別することができず、そしてまた、調査された標本もまた、灰色から黄色っぽいクチクラ層のある、より大きい種子を持つので、これはより複雑な定義です。すべての参加者の間の長い議論の後、できるだけ多くの材料の分析をしながら、2016年に次の Carmagnola 会議の間に研究を完了するために、現在 *G. parvulum huettneri* として同定された植物の材料を含む、主題のより多くの研究を続行することが決定されました。その時、いろいろな名前の最終的な解釈、自然の個体群のそれらの適用がうまくいけば到達するときです。完全な会議は、すべての参加者の間で快適で非常に楽しかった。また、協働の大きいなる精神は皆の中で共有されました。



休憩中の会合の参加者: Lorenzini, A., Papsch, W., Gallina, F., Merregalli, M., Bercht, L.  
(左から)

我々は、Iris Blanz (Fernitz, Austria) 女史、Brian Bates (Bolivia) 氏と英語への翻訳をサポートしている、Graham Charles (United Kingdom) 氏、日本語への翻訳では、Takashi Shimada 氏、また、我々の出版物のミラーサイト (<http://www.cactuspro.com/biblio/>) の Daniel Schweich (France) 氏に、心から感謝の意を表したいと思います。